

平成 30 年度 国立中央青少年交流の家

自然体験活動指導者（NEAL リーダー）養成研修

平成 30 年 7 月 14 日（土）～7 月 16 日（月）2 泊 3 日

○目的

自然体験活動指導者認定制度における養成カリキュラム（概論Ⅰ）に基づいた講習会を実施し、自然体験活動指導者（NEAL リーダー）を養成することで、自然体験活動の推進に寄与する。

○参加者

自然体験活動やボランティア活動に興味・関心のある
大学生，社会人 計 14 名
(男性 10 名，女性 4 名 社会人 8 名 大学生 6 名)



○事業の内容

(1) 研修①「アイスブレイク・所内ラリー」

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職

リーダーの視点に立ってアイスブレイクゲームを行い、心と身体の緊張をほぐした。その後、グループに分かれコミュニケーションをとりながら所内ラリーを行い自然体験活動の特色を理解した。



(2) 研修②安全管理 「一次救命処置」

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職

自然体験活動における基本的な安全管理を理解するために、一次救命処置について学びダミー人形を使用し救急隊に引継ぐまで胸骨圧迫をやり続けることや AED を走って取りにいき装着するなど実際に行う状況に近い研修であった。



(3) 研修③安全管理 「応急処置」

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職

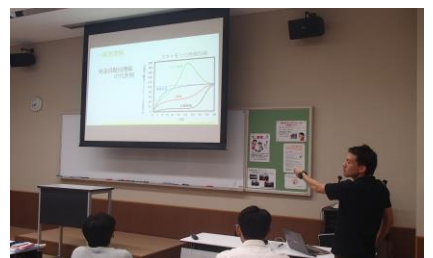
自然体験活動における応急手当（ファーストエイド）の概要・基本（RICE）・手順を理解するために、打撲・骨折・熱中症・アナフィラキシーショックの応急手当を中心に研修を行なった。



(4) 講義①「対象者理解」

講師：至学館大学短期大学部助教 福富 優 氏

対象者理解には“一般的理解”の後に“個別的理解”が必要なことなどを学び、事業の参加者にはどのような特徴があり、それに対する効果的な関わり方について実際のキャンプを想定して討議した。



(5) 研修④「富士山幕岩・双子山トレッキング」

登山ガイド やまぼうし 春木 紀広 氏

登山ガイドによる富士山講話を聞いたり、歩行、読図、危険箇所の通過、山の楽しみ、避難対策（セルフレスキュー）、登山のマナーなどリーダーとして必要な登山技術研修、ファーストエイド演習を行った。



(6) 研修⑤「野外炊事」

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職

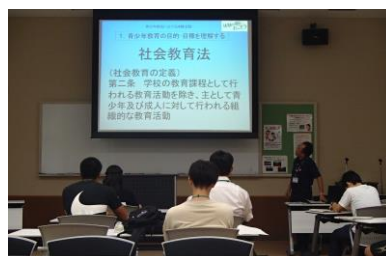
薪をより安全に割るためにはどうすればよいか、湿った薪の場合はどうすれば火が起りやすくなるのかなど、より実践的な野外炊事の技術を身につけた。カレーライスその他、ほうとう、ドラム缶を利用したピザづくりに挑戦した。



(7) 講義②「青少年教育における体験活動」

国立中央青少年交流の家 次長 山下達也

体験活動の定義や分類を確認し、青少年教育にとって体験活動はどんな意義があるのかについて学んだ。また、自然体験活動でどんな青少年課題に向き合っていきたいかについて、グループで話し合いをした。



《参加者の感想》

- ・自然体験活動指導者には安全管理が一番大切であると改めて感じた。
- ・今回の学びを職場に持ち帰って広げていきたい
- ・情報交換の時間がとてもよかった、様々な人と交流ができてよかった…多数
- ・年齢的には上であったが、学ぶ目的を同じくする者として、協力し合ってこの講習を終えることができた
- ・高齢者がさらに増えるこの時代にシニア世代にこのような学びの場があるとうれしいです
- ・登山ガイド講師の方の説明がとても良かった…多数
- ・富士山トレッキングの価値観が変わった
- ・富士サマーキャンプに活かしていきたいです

《成果と課題》

- 今年度の自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成研修は、今後、交流の家を利用される教員や学童指導員が下見を兼ねての参加や社会教育を学ぶ学生の参加など、目的や年齢層は異なるがお互い情報交換を積極的におこなう場面が多く見られ、今後の活動へ大変有意義な養成講習であったと多数の意見が寄せられた。
- 講義形式よりも実際に活動場所へ移動し、実技の講習、演習を増やすことで参加者からは好評であった。
- NEALリーダーの認定を受けても活躍する場が少なく、研修後身につけた技術や知識を発揮できるように、本所が主催する「富士サマーキャンプ」等でボランティアリーダーとして活躍できる機会を提供する必要がある。